

ふれあいひろば



[患者とともにある全人的医療]

ストップ糖尿病

内分泌・代謝内科 宗田 聡

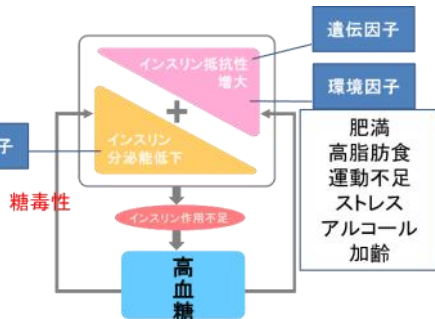
糖尿病という疾患を知らない人はほとんどいないと思います。しかし、糖尿病はどんな病気かの問いに対して淀みなく説明できる人はそうは多くありません。多くは、甘いものを食べちゃいけない病気、目が見えなくなる病気、太っているからなる病気など病態や治療における断片的な知識を持つのみであります。まだ重症化していない糖尿病は症状を伴わないので、患者は病気について知るというモチベーションは高くありません。

それでは、糖尿病はいったいどんな影響力を持つ疾患なのか日本の現状を数字で見てみましょう。

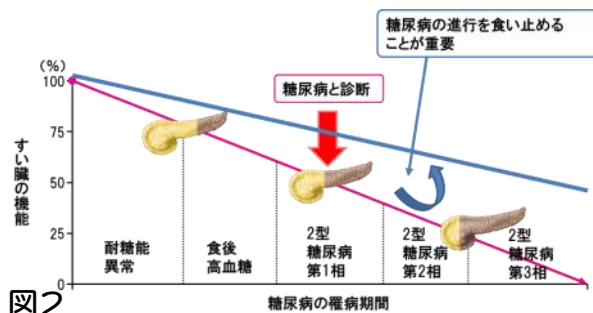
- ①全体で毎年増加している糖尿病患者数・・・70万人
- ②毎日、糖尿病による視覚障害が新たに発生する人数・・・8.2人
- ③1時間毎に糖尿病が原因で新たに血液透析が導入される人数・・・1.8人
- ④1年間の糖尿病関連疾患年間医療費・・・約2兆円
(ちなみに消費税1%税率を上げると約2兆円の税収が見込めます)

これらの数字は年々増加しています。糖尿病の勢いが衰えないのはなぜでしょうか？高齡化社会に伴い糖尿病の総患者数や合併症発症の増加があると思われませんが、糖尿病がより若い時期から発症する患者が増えていることが原因と思われる。

図1



糖尿病発症のメカニズムは(図1)環境因子が大きくかかわっています。肥満、高脂肪食、運動不足、ストレス、アルコール、加齢などは現代社会の特徴であり、生活習慣病である糖尿病を引き起こす原因となります。いったん環境因子によってインスリン抵抗性が增大すると糖毒性を惹起してより高血糖になりやすい状態に陥りま



す。これらの現象は体の中で起こり、無症状で進行していきます。進行を食い止めることが、糖尿病発症の予防となり糖尿病の進展抑制となります(図2)。糖尿病の進行を食い止めるためには、食事習慣、運動習慣を改め、新たに服薬習慣を持つことです。我々は、治療の動機づけとして外来

糖尿病教室を定期的に行っています。教室に参加することによって糖尿病を知り、自分を変える必要

性を感じ取り、そして生活習慣に良い変化をもたらすことを期待し、その結果、境界型糖尿病患者の教室参加者は4年間の糖尿病への進行は非参加者の半分程度でした(図3)。健康は生まれながら平等なはずなのに、差があるのはなぜか？それは、生活習慣を注意しているか、していないかにあります。その差がそのまま生活習慣病の発症の差になっているからです。ストップ糖尿病は、行動を起こした瞬間がはじまりです。

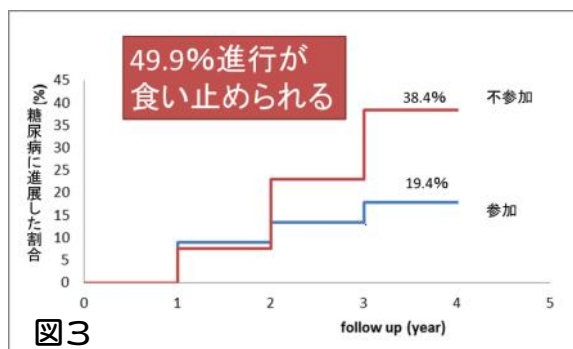


図3

大腸がんの最先端治療～ロボット支援手術～

消化器外科 山崎 俊幸

近年の大腸がん治療における注目すべき最新治療として、直腸がんに対するロボット手術の



図1

紹介をします。ダ・ヴィンチと命名された大がかりな装置で、手術支援ロボットと呼ばれます(図1)。

ロボットというとテレビやマンガの影響で図2のような光景を想像しますが、当たらずといえども遠からず。ロボットアームに取り付けた専用の内視鏡カメラと多関節の高性能鉗子を患者さんのお腹の中に入れます。術者はコックピットに



図2

座り、3Dモニター画面を見ながらロボットアームを操作しますが、あたかも術野に手を入れているような感覚で手術を遂行します。生身の

人の手指ではできない繊細な動きを実現し、精密かつ高度な内視鏡手術が可能となります。

新潟市民病院は、東日本の日本海側では唯一直腸がんに対してロボット手術を行っている病院です。わが国では2015年末までに、約200台が全国各地に納入されましたが、その多くは前立腺の手術を行っています。理由は前立腺全摘術には保険がきくので、患者さんも病院側も悩まずに通常診療としてやっていけるからです。そのほかの手術では胃がんが先進医療で半額程度の補助を受けられるようにはなりませんが、直腸がん含めてその他の手術は自由診療つまり全額自己負担となります。患者さん側も病院側もまだまだ大変な努力が必要とされています。

理想を追求するにはお金がかかります。理想の手術を実現できるロボット手術。一生に一度しかないかもしれない手術。家族のために貯蓄してきたけど、病気になったのは自分。自分を励ますために、今こそ勇気をもって！全国民がこのロボット手術を気軽に受けれるようになることを、世紀の天才芸術家レオナルド・ダ・ヴィンチ(図3)も、泉下で望んでいることでしょう。



図3

第7回市民病院ふれあいまつり2016 10月8日(土) 午前10時～午後3時 開催!

副院長 小田 弘隆

“第7回市民病院ふれあいまつり2016”を開催しますので、皆様、是非とも、新潟市民病院会場にご来場ください。

病院はどんなところか知っていますか。もちろん、病気を治すところですが、病院で行われている仕事を皆様によく知って頂きたいのです。X線て何?、薬をもらうまでにどのような仕事があるの?などの全てをお教えします。めったに入れない手術室の見学もあります。救急時の対応、心肺蘇生法など皆様の大事な人を救うために学ぶこ

とができます。また、病気のことについても、講演やパネル展示でその知識を得ることができます。病気を知ることで、皆さん自身が早い対応ができることにつながります。

アミューズメントには、マジックショー、ポップコーンのサービス、金魚すくい、コンサート、フードコーナー等があります。

きっと楽しい時間を過ごすことができ、そして、満足感を感じる一日になるでしょう。

『いつもと違う頭痛に要注意（危険な頭痛）』

脳神経内科 関谷 可奈子

頭痛はとても一般的な「よくある症状」です。これまで生きてきた中で一度も頭痛を経験したことがない、という人は少ないと思います。「頭痛なんて病気じゃないわ、わざわざ病院に行くなんて」という人もいるでしょうし、場所が場所だけに「何か頭の中に危険なことが起こったのでは」、とすごく心配になる人もいます。

ほとんどの慢性的な頭痛は、あまり心配しなくてもよいことが多いのですが、一部の頭痛には命にかかわるものもあります。「たかが頭痛、されど頭痛」です。

注意が必要な頭痛の特徴とは何でしょうか。ポイントは「いつもと違う頭痛」です。

☆こんな頭痛には要注意

- ・今までにない強い頭痛（人生最大の頭痛）
- ・突然の激しい頭痛（例えば、バットで殴られたような強烈な頭痛）
- ・発熱を伴う頭痛
- ・手足のしびれや動かしにくさ、言葉がしゃべりにくい、という症状を伴う頭痛
- ・意識がもうろうとなったり、訳のわからないことを口走ったりする頭痛
- ・高齢になって初めて起こった頭痛
- ・日に日にだんだんひどくなる頭痛

以上のような頭痛であれば、すぐに病院を受診するようにしましょう。



■くも膜下出血

突然の激しい頭痛でまず疑われる病気が「くも膜下出血」です。脳動脈瘤の破裂などによって血管が破れ、脳を覆うくも膜と軟膜という薄い膜のすき間に血液があふれてしまう病気です。

「バットや金づちで殴られたような」「後頭部に雷が落ちたような」などと表現される今までに経験したことがない頭痛（人生最大の頭痛）のときは疑わなければいけません。また頭痛が起きたときに何をしていたかはっきりわかるくらい（「朝くらいから何となく痛み出して…」ではなく「洗濯物を取り込んで、かごを持ち上げた瞬間にガンときた」という感じです）、突然起こって一気に強くなる頭痛、というのも特徴です。激しいおう吐やけいれん、意識を失うなどの症状を伴うこともあります。

■脳出血

「脳出血」は、脳の血管が破れて脳の中に出血し、血液のかたまりができて脳を内側から圧迫するため頭痛を起こします。たいていは高血圧が原因です。手足の麻痺やしびれ、ろれつが回りにくいなどの神経の症状を伴うことがあります。普段から血圧が高い人、血液をさらさらにする薬（ワーファリンなど）を飲んでいる人は注意が必要です。

■髄膜炎

高熱や風邪の症状に強い頭痛を伴う場合には「髄膜炎」が疑われます。脳を包んでいる髄膜がウイルスや細菌によって強い炎症を起こしている状態です。髄膜炎の頭痛は、体を動かしたり頭を振ったりすると痛みが強まる点も特徴です。

「いつもと違う」という感覚を大事にして、心配なことは医師に相談してください。

登録医の紹介

医院名： こなん内科クリニック 院長 前田 恒治
診療科目： 内科、呼吸器内科、アレルギー科、リハビリテーション科
住所： 〒950-1151 新潟市中央区湖南29-1
電話： 025-283-1181
診療時間： 月・火・水・金 9:00~12:30 15:00~18:00
 木・土 9:00~12:30



休診日： 日曜・祝日

自院特徴と診療方針：

呼吸器疾患を中心に内科全般、急性期慢性疾患に幅広く対応します。
16列マルチスライスCTを設置しており、迅速なCT検査が可能です。



医院名： こばやし内科クリニック 院長 小林 義昭
診療科目： 内科、呼吸器内科、アレルギー科
住所： 〒950-0914 新潟市中央区紫竹山6-2-26
電話： 025-246-5600
診療時間： 月・火・木・金 9:00~12:00 15:00~18:00
 水・土 9:00~12:00



休診日： 日曜・祝日

自院特徴と診療方針：

このたび新潟駅南、紫竹山インター・弁天インター近くに、こばやし内科クリニックを開業致しました。新潟大学・新潟市民病院をはじめ上・中・下越の中核総合病院で内科診療に従事し研鑽を積んで参りました。高血圧・高脂血症・糖尿病をはじめとする内科疾患全般に対応し、気管支喘息・COPD・感染症・睡眠時無呼吸症候群など呼吸器領域の専門的な対応が可能です。また、往診・訪問診察も行っています。一人でも多くの方々に和みと安らぎを感じて頂ける医療を提供したいと考えております。皆様からも温かいご支援とご指導を賜れば幸いです。

サービス付き高齢者住宅であるナーシングホーム新潟駅南の協力医療機関でもあります。

高血圧・高脂血症・糖尿病をはじめとする内科疾患全般に対応します。気管支喘息・COPD・感染症・睡眠時無呼吸症候群などをはじめ、在宅酸素療法・在宅人工呼吸器療法など呼吸器領域の専門的な対応が可能です。また、往診・訪問診察も行っています。



市民病院のホームページもご覧ください
<http://www.hosp.niigata.niigata.jp/>

新潟市民病院 広報広聴委員会

新潟市中央区鐘木463-7

電話 025 (281) 5151

Fax 025 (281) 5187

編集後記

スポーツの秋に向け、息子とジョギングを・・・
と思いましたが、三日坊主にもなれませんでした!!
やっぱり私は“食欲の秋”ですかね・・・

(S.Y.)